

## トピックス 原子力災害からの復興

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所(以下、福島第一原発)事故から15年が経過する中、森林・林業の分野で地域に雇用を取り戻すとともに、福島県産材を日本中

で使ってもらうことにより、福島県の森林・林業を再生するためのチャレンジが続けられています。

### コナラ等の広葉樹活用の挑戦

福島第一原発事故前、福島県のコナラを中心とした広葉樹材は、しいたけ原木として全国一の出荷量を誇っており、原木を伐採・更新することで森林の手入れが進められていました。しかし、福島第一原発事故の影響で利用ができなくなり、森林の手入れが行き届かない状況にあります。

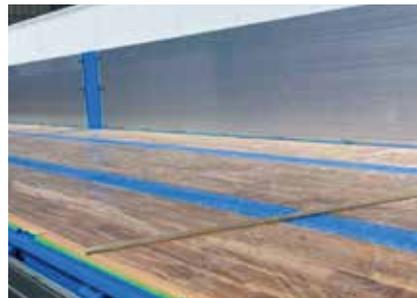
このため、「里山・広葉樹林再生プロジェクト」により、それらの広葉樹林の計画的な伐採・更新を進めるとともに、コナラ等の利用拡大に向けた取組を進めています。福島県林業研究センターでは、伐採適期を過ぎても、しいたけ原木に利用できない径級のコナラ材について、家具や建具として利用するため福島県郡山地区木材木工工業団地協同組合等と連携して「集成フリー板」を試作し、各工程における歩留りや乾燥手法、強度

性能等の検証を行っています。

また、付加価値の高い木材製品の開発に取り組む越井木材工業株式会社(大阪市)の協力を得てトラック荷台の床板への活用を進めています。



■伐採後のコナラの更新



■トラック荷台に架装したコナラ床板

### 大阪・関西万博で福島県産木材が使用されました

2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)では、多くの施設に様々な形で木材が使用され、福島県産材(スギ)も大屋根リング等に使用されました。福島県産材が多くの来場者の目に触れ、木材の良さや木材利用の意義が広く浸透することで、福島県産材の利用の機運が更に高まることが期待されます。



■万博の大屋根リング



■万博の東ゲート

### 森林作業ガイドライン～被ばく線量管理のための留意事項～

政府の復興基本方針(2025年6月閣議決定)において、長らく手付かずであった帰還困難区域内の森林整備の再開に向け、条件整備を進めた上で本格的な復旧に着手することが明記されました。

林野庁では放射性物質の影響を受けた森林で作業される方々が、安全かつ安心して作業を行えるよう被ばく線量管理を行う場合の留意事項をまとめた「森林作業ガイドライン」を策定しました。

ガイドラインでは、空間線量率等が一定の基準値以下の箇所であれば、被ばく線量管理を行わなくても森林整備ができること、一定の基準値を超える箇所であっても、作業種や作業期間等の組合せの工夫により安全

に作業ができることを示しています。

これにより、帰還困難区域を含む福島県の森林・林業の更なる再生に向けて取り組んでまいります。

※詳細は裏表紙のQRコードより御覧ください



■手付かずの森林



■整備後の森林